

平成 24 年 3 月 1 日

公立陶生病院組合

管理者 瀬戸市長 増岡錦也 殿

公立陶生病院改革プラン評価委員会

委員長 加藤 流 慈

公立陶生病院改革プランの評価について(答申)

平成 24 年 2 月 1 日付け 23 陶病企第 46 号にて諮問いただき、去る 2 月 13 日に開催した「公立陶生病院改革プラン評価委員会」における討議の結果を下記のとおり答申します。

記

平成 22 年度の経営状況は、非常に良い内容を計上することできた。収支状況を見てみると、事業収益が前年度に比べ 8.1%増の 191 億 34 万 9,000 円を計上したのに比べ、事業費用が 3.5%増の 177 億 3,558 万 8,000 円に抑えられたため、収支決算で 13 億 6,476 万 1,000 円の収益を計上し、長年続いていた累積欠損金を一気に解消し、2 億 5859 万円の利益剰余金をあげるに至った。

単年度決算としては、開院以来最も良い結果となった。

この要因には、診療報酬改定や病床の回復により入院収益が前年度に比べて 10.6%、外来収益も 5.0%伸びたことで、この医業収益の伸びが大きく寄与した。特に医業収益に占める入院収益が 63.9%と高いことを思うと、今後も入院機能の充実に努めていくことが重要である。

更に、経営の効率化に向けた改革プランの取り組みにおいても、鋭意積極的に取り組んでいる姿を認識した次第である。

具体的に見てみると、医療現場を預かる医師の確保は順調に推移しており、地域医療支援病院承認や医療連携への取り組み、施設の耐震化と再配備など病院機能の充実が図られてきている。しかし、看護師においては不足がまだ解消されていない。看護師不足からの一因と考えられる病床の休床についても前年度に比べて 20 床回復したものの総床 716 に対して 56 床の休床数が存在する。収益に大きく影響する休床数の再稼働に向けて、看護師の確保を最優先課題に掲げ、一層の取り組みを続けていただきたい。そのためには求人活動を幅広く展開するとともに、定着率を高めるために働きやすい職場環境の構築にも努力していただきたい。

公立陶生病院が、地域住民に密着した公設公営の経営形態を続ける中で、充実した医療を提供し尾張東部医療圏の圏域北部で唯一の公立病院として、急性期医療を積極的に担うとともにがん医療や周産期医療、小児医療、救急医療、先進的な高度医療など幅広い医療機能の充実と基盤強化に努め、地域医療の更なる発展に寄与されたい。